

製作秘話や思い出語る

豊橋の映画祭で宮本信子さん

市民有志が企画し、新旧の名画を一挙上映する「とよはしまちなかスロータウン映画祭」が十三日、豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットで始まった。開幕イベントで、名古屋育ちの女優宮本信子さん(モミ)がゲストに招かれ、夫の故伊丹十三監督との製作秘話を語った。

伊丹監督の代表作「タンポポ」「マルサの女」の上映後に登壇し、当時の製作風景を「うまくいくと監督が『OK』と言ってニコツと笑う。皆、その顔がうれしい」と振り返った。今は亡き夫を「すばらしいリー



ダー。一番格好いいと思います」と褒めると、会場から拍手が湧いた。

ほかに愛知淑徳高(名古屋市)時代の思い出や女優を志したきっかけを、ちゃ

めったつぷりに語り、笑いを誘った。最後は約七百人の来場者と、伊丹作品の舞台あいさつでおなじみの

三本締め。宮本さんが「映画祭が大成功に終わりますように」と掛け声をあげた。映画祭は二月十七日ま



にこやかに伊丹監督との思い出を語る宮本さん＝豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットで

で。一部イベントを除き、一般上映分の入場券は完売している。(映画祭実行委
0532(52) 9980
(高橋雪花)